資料1

道内の感染状況等について

【令和4年11月2日】

主な指標の状況

11／1	レベル	移行指標 病床使用率	移行指標 重症病床使用率	移行指標 10万人当たり新規感染者数	その他指標 新規感染者数今週先週比	その他指標 陽性率
全 道	2	31.5%（727床） ↗	5.6%（7床） ↗	644.8人/週（33426人/週） ↗	1.42 ↗	50.0% ↗
札幌市	2	39.4%（294床） ↗	2.0%（1床） ↘	631.6人/週（12383人/週） ↗	1.53 ↗	82.2% ↗
札幌市を除く地域	2	27.8%（433床） ↗	8.0%（6床） ↗	652.9人/週（21043人/週） ↗	1.36 ↗	40.6% ↗

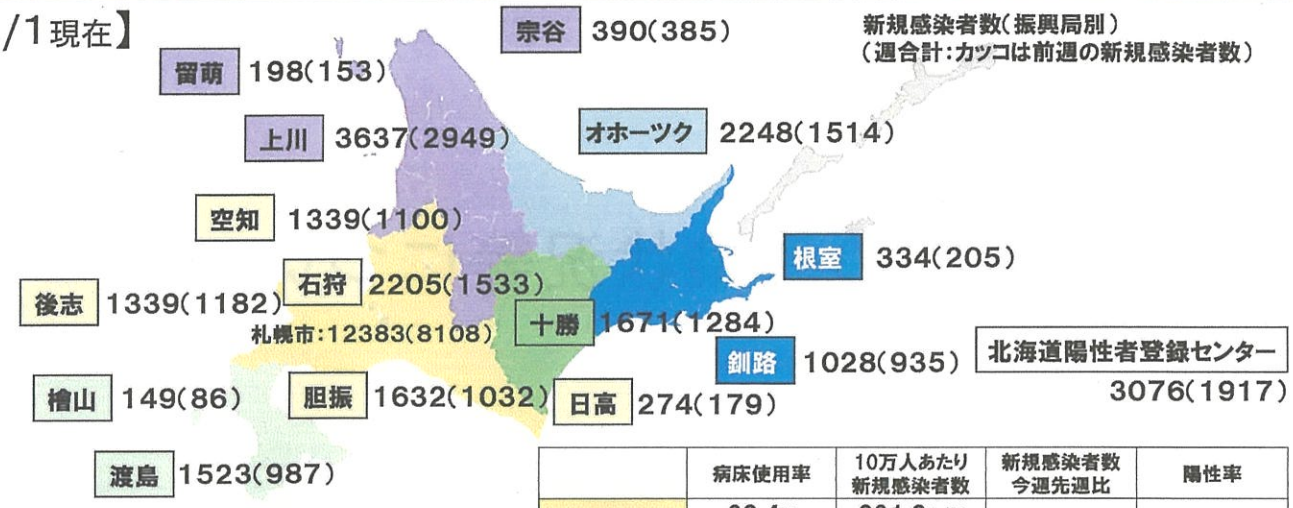
レベル２ 移行指標	20% 又は	20%	15人/週
レベル３ 移行指標	50% 又は	50%	－

※（　）は実数。 各指標の動向（矢印）は、１週間前との比較。

（注）・令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。
・レベル分類については、国に対し新たな考え方を示すよう求めており、示されるまでの間は、公表しなくなった指標を除いて運用する。
・札幌市の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数（13,886人）を検査数に含めず算出。検査数に含む場合、札幌市 42.8%　全道 41.4% となる。

地域における主な指標の状況

【11/1現在】



	病床使用率	10万人あたり新規感染者数	新規感染者数今週先週比	陽性率
札幌市	39.4% (294床)	631.6人/週 (12383人/週)	1.53	82.2%
道央圏 (札幌市除く)	27.0% (134床)	507.7人/週 (6789人/週)	1.35	32.3%
道北圏	35.8% (119床)	726.5人/週 (4225人/週)	1.21	36.4%
道南圏	24.5% (59床)	406.7人/週 (1672人/週)	1.56	28.9%
十勝圏	47.4% (81床)	503.5人/週 (1671人/週)	1.30	38.3%
オホーツク圏	11.1% (14床)	834.5人/週 (2248人/週)	1.48	36.9%
釧路・根室圏	13.5% (26床)	466.5人/週 (1362人/週)	1.19	45.6%

※地域別の病床使用率や新規感染者数等の数値は、変動が大きくなる場合があることに留意。

※令和4年9月26日以降、全数届出の見直しに伴い、振興局別(圏域別)の新規感染者数は届出があった医療機関の所在地別となっている。また、「療養者数」、「感染経路不明割合」が全体として把握できなくなったため、公表していない。

※札幌市の陽性率については、高齢者施設等の従事者に対する頻回検査数(13,886人)を検査数に含めず算出。検査数に含む場合、42.8% となる。

総　評　①

【全国の状況】

○ 全国では、新規感染者数の増加傾向が続いている。北海道は10月26日以降、10万人当たりの新規感染者数が全国最多となっている。

※参考：11月1日、新規感染者数先週比　東京1.22、大阪1.10、福岡1.14、沖縄1.06（北海道調べ）

【医療提供体制】

○ 病床使用率については、31．5%と、増加傾向となっている。また、札幌市については39．4%と、同様に増加傾向となっている。また、道央圏や道北圏、十勝圏では高い水準となっている。重症病床使用率は増加が続いており、5．6%となっている。

【感染状況】

○ 新規感染者数は、人口10万人当たりでは644．8人。10月13日に今週先週比が1を上回って以降、増加局面となっており、増加幅に変化があるものの増加傾向が継続している。年代別では、引き続き、30代以下の割合が約6割を占めており、特に10代の割合が約2割と増加してきている。

総　評　②

【今後の対策】

○ 現在の感染拡大について、国の専門家からは、夜間滞留人口の増加など人の動きの活発化や、気温が下がり、換気しにくい時期となったこと、体調管理が難しくなっていること、ワクチン接種により獲得した免疫の低下などが指摘されている。

○ これまでの新たな変異株による感染拡大と異なり、現在の流行株は、今夏の感染拡大と同じBA.5系統であり、対策としては、これまで同様に基本的な感染防止対策が有効とされている。

○ このため、特に、感染リスクの高まる場面におけるマスクの適切な着用のほか、工夫した換気の実施、体調管理に十分注意するなど、基本的な感染防止行動を実践いただけるよう、改めて呼びかける。また、10代以下の感染者数が増加してきていることから、児童・生徒や保護者の皆様へ、改めて周知する。さらに、オミクロン株対応ワクチンの早期接種について検討いただけるよう働きかける。

○ 企業などの事業所や高齢者施設、医療機関等における感染リスクが高まる場面の確認や、観光事業者等における事業者と利用者の双方が行う取組の徹底など、感染防止対策について、改めて点検するよう依頼する。

さいけい

総　評　③

○ 保健医療提供体制については、これまで、検査キットの配布など検査体制の充実や、入院患者の増加に即応した病床の確保、陽性者健康サポートセンターの設置など自宅療養者への支援（※）などに努めるほか、全数届出の見直しに伴い、重症化リスクのある高齢者等への対応に重点を置く体制を整えてきたところであり、今後とも、こうした体制を維持確保し、機能が十分に発揮できるよう、地域の状況を丁寧に把握しながら、改めて確認を行う。　（※）全数届出見直し後の状況について（スライド㉘）

○ 即応病床については、入院患者数が増加している道央圏、道北圏、十勝圏のフェーズを11月7日から2に引き上げる。道南圏などにおいても入院患者数が増加していることから、地域との調整などフェーズ2への引き上げを検討する。また、他の圏域についても入院患者数の増加に即応できるよう、医療機関と連携を密にしながら、地域の感染状況等についてモニタリングを行う。

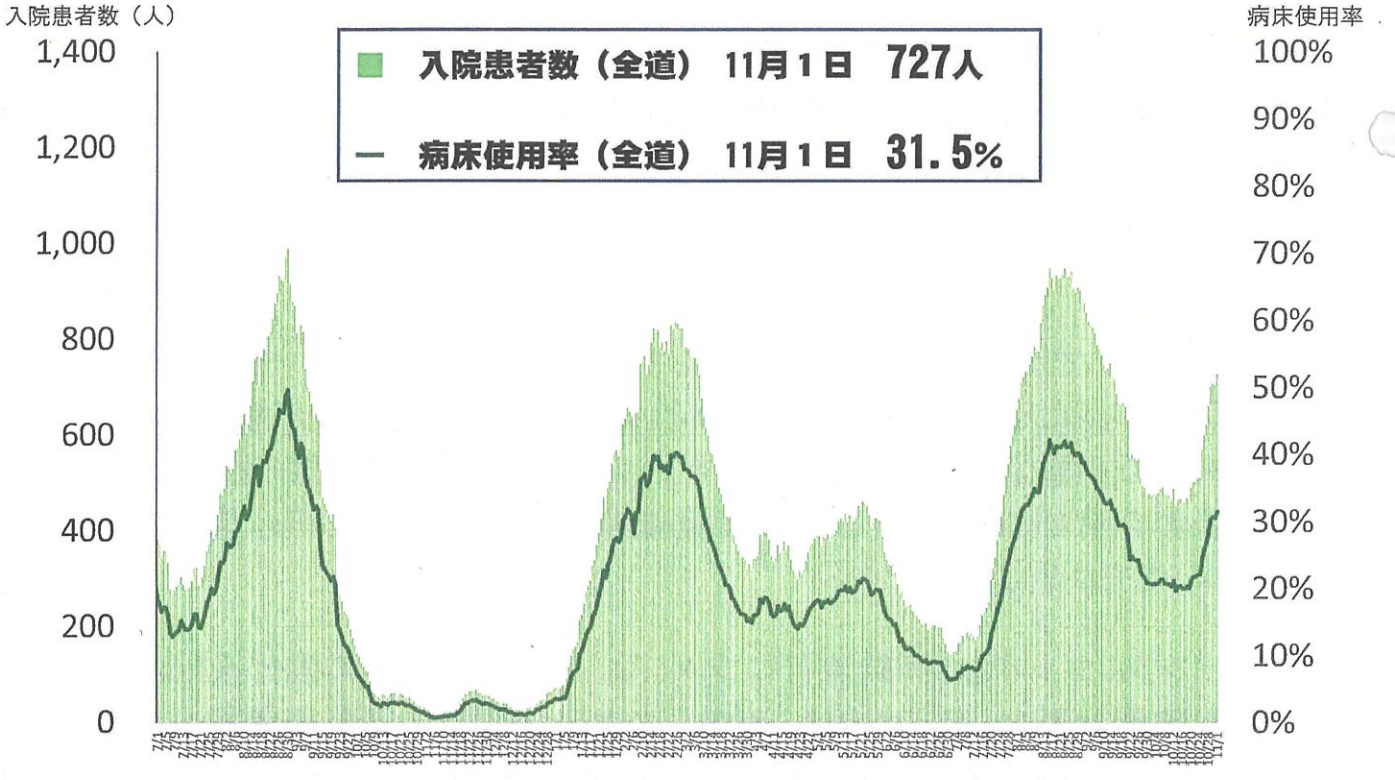
○ 季節性インフルエンザとの同時流行については、外来医療体制の強化等を図る「外来医療体制整備計画」の策定に向け、道内におけるピーク時の発熱患者数や診療体制の状況、今後の対応等について、専門家からご意見をいただいたところであり、引き続き、関係団体等とも丁寧に議論を行いながら、策定作業を進める。

総　評　④

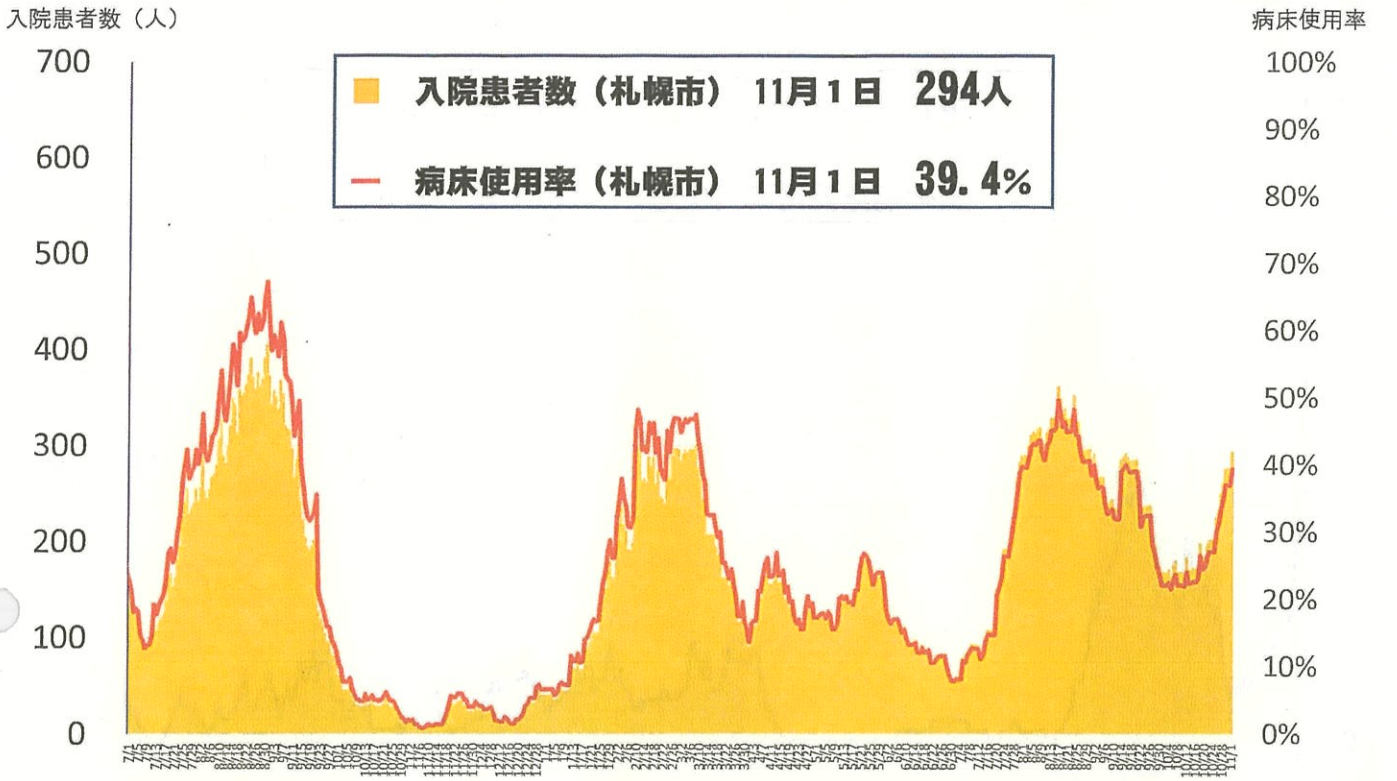
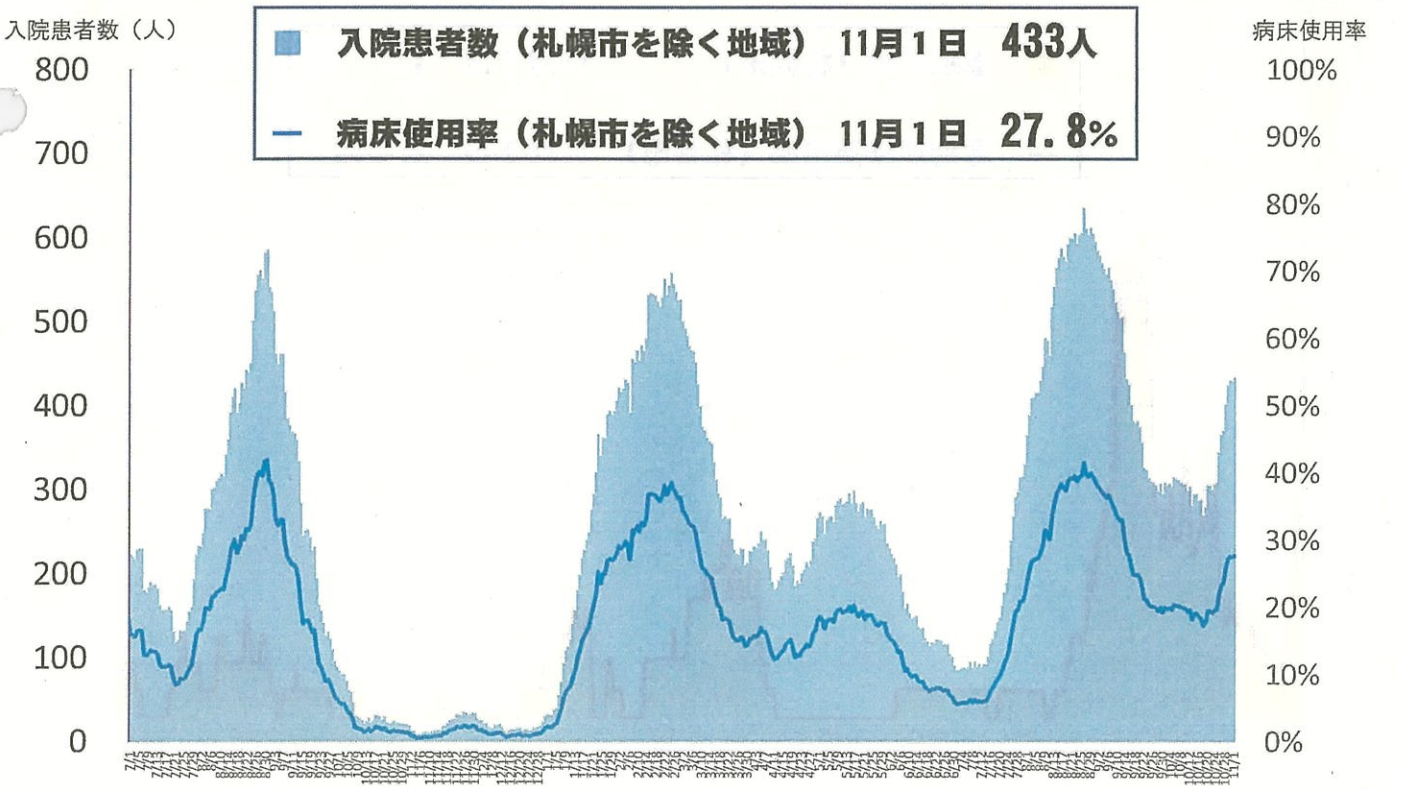
○ 本道において新規感染者数が増加する中、国による病床確保料の見直しについては、今後の病床確保に影響が生じかねないものであり、全国知事会を通じ、地域の実情に応じた制度設計とすることなどについて、国に求めてきた。道としては、関係団体のご意見も踏まえながら、引き続き、全国知事会とも十分連携し、国に必要な対応を求めていく。

○ 北海道ワクチン接種センターにおけるオミクロン株対応ワクチンの接種については、12月3日以降分の予約を予定より前倒し、11月3日から受付開始する。道内市町村でも順次接種が開始されているが、年内に希望する方全員が接種いただけるよう、SNSや情報誌等、多様な媒体による広報を進める。また、従来型ワクチンの1、2回目接種が完了していない方についても年内に完了いただけるよう、働きかけを行う。

入院患者数と病床使用率（全道）



入院患者数と病床使用率（札幌市）



入院患者数と病床使用率（札幌市を除く地域）